

平成20年度彩の国さいたま芸術劇場指定管理業務における自己評価

平成18年度から3年間という指定期間が終了し、指定管理者制度導入後初めての区切りを迎える平成20年度は、その集大成として、埼玉から芸術文化を発信する事業を数多く実施し、芸術文化における埼玉の特色をより一層打ち出すよう努めるとともに、様々な人が集い、触れ合い、感動する、地域のにぎわいの核としての役割を果たすよう努めた。その結果、今年度も指定管理業務基本協定における評価指標（3年間を通して評価）を上回る実績を上げることができたほか、彩の国ファミリーシアターとして、人気漫画を音楽劇にした「ガラスの仮面」を上演し、今まで当財団の演劇部門にはなかったファミリー層という新しい客層を獲得することができた。これらにより、芸術文化の発信地としての地位をより強固なものとする1年となった。

以下、平成20年度彩の国さいたま芸術劇場指定管理業務の自己評価について報告する。

1 文化振興部門

(1) 舞台芸術作品の提供に関する業務

ア 事業の概要

全体総括

平成18年1月より就任した蜷川幸雄芸術監督のもと、芸術性の高い舞台芸術作品をより多くの方々に身近に親しみ楽しんでいただくため、当劇場の特長を生かしたラインナップにて舞台芸術作品の鑑賞機会を提供した。

・ 事業数及び公演数

	計 画	実 績	増 減
事業数	38 事業	37 事業	△1 事業
公演数	187 公演	214 公演	27 公演

出演者の都合により中止となった事業が1事業発生したが、全体としては概ね計画どおり事業を実施することができた。

・ 入場者数：62,519人

各部門において当劇場の特長を生かした多彩な事業を展開していった結果、前年度より約1万人増の約6万2千人という大勢の方々に質の高い舞台芸術作品の鑑賞機会を提供することができた。

舞 踊

平成18年度及び平成19年度の反省を生かし、事業実施時期の配分の適正化や計画的な営業宣伝を行った結果、収支比率、チケット販売率とも順調な成績を収めることができた。

公演内容としては、5年ぶりの来日となったラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップス『Amjad』が主要紙、専門誌の公演評において高く評価されたのを始め、コンドルズ、勅使河原三郎についても高い評価を得ることができた。さらに、文化芸術特別企画助成事業では、ナチョ・ドゥアト率いるスペイン国立ダンスカンパニーにより「彩の国シェイクスピア・シリーズ」にちなんだ『ロミオとジュリエット』を上演した。当該公演はコンテンポラリー・ダンスのファンばかりでなく、クラシック・バレエの観客層の注目も集めるなど、多くのメディアによって年間ベストの1つに取り上げられ、高く評価された。

今後は、収支面及びチケット販売面の戦略をより磨き上げるとともに、当劇場の特長である先鋭的なコンテンポラリー・ダンスを、全国へ向けより強く印象づけていくことができるよう、新たな試みなども含め検討していきたい。

音 楽

平成19年度に引き続き、若手の実力派を採り上げた「ピアノ・エトワール・シリーズ」を文化芸術特別企画助成事業において実施したほか、日本を代表するヴァイオリン奏者「諏訪内晶子 ヴァイオリン・リサイタル」、クリニックと連動させた「ベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団」、定着したファンの多い「バッハ・コレギウム・ジャパン」など、当劇場のホール特性を生かした、多彩なラインナップにて作品を提供した。

しかし、「児玉桃メシアン・プロジェクト2008第3回」は、指定管理業務の最低基準（チケット販売率50%）を達成できなかった。現代音楽の作曲家に焦点を当てた公演は集客に苦勞するところではあるが、様々な音楽の魅力を伝えていくことも当劇場の使命と考え、今回の反省点を改善し、今後の事業に活かしていきたい。

演劇・古典芸能ほか

当劇場の代表シリーズである「彩の国シェイクスピア・シリーズ」を始め、根強いファンの多い「源氏語り五十四帖」や「彩の国さいたま寄席」など、幅広い層に楽しんでもいただけるラインナップを提供することができた。特に当年度においては、蜷川幸雄芸術監督演出による「身毒丸復活」や「ムサシ」など注目度の高い作品を提供し、絶え間なく当劇場から話題を発信することができた。

イ 収支比率

評価指標 a	年 度 目標値 b	実 績 c	実績－評価 指標 c-a	実績－年度 目標値 c-b
50.0%	52.7%	65.3%	15.3%	12.6%

平成20年度においては収支面で苦戦した部門はなく、加えて演劇部門において大幅なコスト削減が図られたため全体の収支比率が引き上げられ、評価指標、年度目標値とも上回る実績を挙げる事ができた。ただし、チケット販売率を当初目標で既に高く設けているため、大幅な収入増を見込むことが難しくなりつつあるのが現状である。

ウ チケット販売率

評価指標 a	年 度 目標値 b	実 績 c	実績－評価 指標 c-a	実績－年度 目標値 c-b
70.0%	80.6%	90.8%	20.8%	10.2%

チケット販売率も収支比率同様の傾向である。前年度に引き続き広報誌の活用や教育機関への地道な営業活動等により、評価指標、年度目標値とも大きく上回る実績を挙げる事ができた。

(2) 普及啓発に関する業務

ア 事業の概要

県民に芸術文化の裾野を広げるため、誰もが気軽に鑑賞できる無料の「プロムナード・コンサート」や、アーティストが学校に出向いて行うアウトリーチ事業「MEET THE MUSIC」、ダンスや音楽のワークショップなどを実施した。

前年度から引き続き文化芸術特別企画助成事業において55歳以上の演劇集団「さいたまゴールド・シアター」に取り組んでおり、平成20年度

は第2回公演を実施した。そのほか同事業では、彩の国ファミリーシアターとして人気漫画を音楽劇にした「ガラスの仮面」を上演し、新聞やテレビ等で取り上げられるなど多くの注目を浴び、他の指定管理事業と相乗して当劇場から全国へ芸術文化を発信することができた。

また、平日の昼間に気軽に聴ける「ランチタイム・コンサート」を前年度に引き続き実施し、聴衆の拡大を図るとともに近隣店舗との連携も図った。

・ 事業数及び公演数

	計 画	実 績	増 減
事業数	32 事業	34 事業	2 事業
公演数	45 公演	63 公演	18 公演

計画で予定していたもののほか、彩の国シェイクスピア・シリーズに併せ気軽に楽しんでいただける無料の「さいたまアーツ・シアター ライヴ！！」を今年度も実施した。平成20年度は同事業により約3千2百人集客することができた。

・ 普及啓発事業の規模・参加者数（別紙2再掲）

分 野		年度目標値 a	実績 b	実績－年度 目標値 b-a
一般県民 対象事業	規 模	6,000 人	33,630 人	27,630 人
	参加率	80.0%	79.4%	△0.6%
人材育成 事 業	規 模	300 人	494 人	194 人
	参加率	85.0%	102.0%	17.0%

上記の「ガラスの仮面」で約1万4千人の参加があり、また「さいたまアーツ・シアター ライヴ！！」を追加で実施したことにより、目標より大幅に規模（参加者）を増大することができた。ただし、参加率については平成19年度から取り組み始めた「ランチタイム・コンサート」の影響により目標値を下回ることとなった。当該事業は、地域と連携し芸術文化の裾野を拡げていくためには必要な取り組みであるので、これからも引き続き実施することにより定着させ、徐々に参加率を上げていきたい。

(3) 貸館における創造的活動支援に関する業務

ア 来場者数：378,979人

貸館業務において高い技術力に裏打ちされたサービスを提供し、また積極的に無料開放スペースの活用等も図った結果、約38万人という大勢の方々にご来場いただいた。

イ 施設利用率（上段）及び貸館利用率（下段）

評価指標 a	年度目標値 b	実績 c	実績－評価 指標 c-a	実績－年度 目標値 c-b
70.0%	77.7%	85.5%	15.5%	7.8%
45.0%	54.1%	57.2%	12.2%	3.1%

専門性の高い設備、技術力の高いスタッフのもとで、舞台芸術専門の劇場として高水準のサービスを提供することにより利用者ニーズに応え、評価指標、年度目標値とも上回る実績を挙げることができた。特に平成20年度においても、財団主催事業が前年度に引き続き多く実施されたため、利用率を引き上げることとなった。

ウ 利用料金収入

H20 決算 a	H20 予算 b	H20 決算－H20 予算 a-b
95,972,198 円	79,948,000 円	16,024,198 円

より多くの方々にご利用いただくため、キャンセルが出た場合には利用予約の抽選に漏れた方へその情報を提供し利用を促すなどの積極的な利用促進を図った結果、予算に比べ大幅に上回る収入を上げることができた。

エ 利用者サービスの向上

利用者アンケートを全面的に見直し利用者ニーズをより細かく把握することにより、より一層の利用者サービスの向上に努めた。

(4) 県内文化資源の支援に関する業務

県内高校生を対象とした舞台技術講習会や、大学のインターンシップの受け入れなど、将来舞台芸術を担う人材の育成に資する事業を積極的に展開したほか、県内及び近県の職員を集めた舞台技術講習会を実施しお互いのスキルアップやネットワーク強化を行うなど、大きな成果が得られた。

2 施設管理部門

予防保全の考え方にに基づき、施設の効用持続年数を落とすことなく施設管理を行った。ただし光熱水費においては、財団主催事業利用の増加や原油高の影響がコスト縮減努力を上回り、当初予定を上回る結果となった。今後においては施設の効率的利用等を行い光熱水費の削減に努めていく。

3 付帯業務部門

(1) 情報発信に関する業務

舞台芸術資料室においてこれまでの貴重なストックを活用した資料公開を行った。また、文化振興事業に関連した企画コーナー（さいたまゴールド・シアター、ガラスの仮面及びシェイクスピア特集等）を設けた。

(2) 営業宣伝に関する業務

ア 財団情報誌の発行

「埼玉アーツシアター通信」 年6回 各13,000部

今までの財団情報誌を全面リニューアルし、よりわかりやすく魅力的な紙面を創り上げ、財団の活動内容や自ら主催する公演の紹介を行った。

イ ホームページの活用

より見やすく分かりやすいホームページとするため、平成20年7月にホームページのリニューアルを実施した。具体的には、舞台芸術資料室の案内を刷新し、より効果的な広報を行うとともに、ウェブ上での資料検索を可能にし、利用者の利便性を高めた。

ウ チケット販売率（1（1）ウ再掲）

評価指標 a	年度 目標値 b	実績 c	実績－評価 指標 c-a	実績－年度 目標値 c-b
70.0%	80.6%	90.8%	20.8%	10.2%

上記ア、イの活動のほか、各事業において積極的な営業・宣伝活動を行い、全体としては評価指標及び年度目標値を上回る実績を得ることができた。

(3) 会員制度の運営に関する業務

ア メンバーズ事業

メンバーズ会員数 6,091人（平成21年3月末現在）

平成20年度は、話題性があり芸術性も高い作品を絶え間なく提供していった結果、前年度より大幅に会員数を伸ばすことができた。

イ サポーター会員事業

サポーター会員数 86社（平成21年3月末現在）

財団をご支援いただく法人等の会員組織「サポーター会員」への加入促進に努めたが、一部退会となった会員もあり、前年度より15社減となった。また、「冬物語」の際には懇親会も実施した。

(4) 憩いの空間の提供に関する業務

情報プラザや利用者交流コーナーを開放し、気軽に楽しめる無料演奏会「プロムナード・コンサート」を行うなど、芸術文化を身近に感じてもらう環境づくりを行った。また、ギャラリーにおいては「彩の国シェイクスピア・シリーズ展」など財団で主催する事業に連動した企画展を実施し、多くの方々に芸術文化に触れてもらう機会を提供した。